

議題提案書

【○】協議事項

【 】報告事項

議題名：NGO 活動環境整備支援事業への取り組みの成果と今後の課題

【提案者氏名、所属】

氏名：安達 三千代

所属：認定 NPO 法人 IVY／連携推進委員

【議題提案の背景】

NGO 活動環境整備支援事業（N 環）は、日本の NGO の能力強化等を目的とし、「NGO 相談員」「NGO 海外スタディ・プログラム」「NGO 研究会」「NGO インターン・プログラム」の 4 つのプログラムで構成されている。

NGO や国民から高い需要がありながら、補足資料①に示すとおり、平成 23 年度に 1.6 億円だった予算が昨年度は 1 億円を切っており、応募枠も年々漸減している。

そのため、NGO 側ではこの流れを反転できないかと考えており、2 年間に亘り、連携推進委員会ではその成果や課題について対話や議論を行ってきた。特に昨年度は、8 月、11 月、1 月と 3 回に亘り開催されたタスクフォース会合で議題に上げた。また、9 月には N 環アンケートを実施し、NGO 74 団体から回答をいただき、第 2 回推進会議で結果を報告させていただいた。それらのプロセスを経て、ある一定の成果や制度の改定などが行われたが、更なる検討が必要な事項も残っている。

補足資料②に示すとおり、NGO 側にとっても国民にとっても N 環の必要性は非常に高い。また、今年度は JICA における NGO の活動を支援する提案型プログラムは行われないことから、N 環への期待は一層高まっている。

今年度も TF などを通じた議論を続けてゆき、さらなる制度の発展に結び付けていく必要がある。

【議題論点】（連携推進委員会で議論したい点）

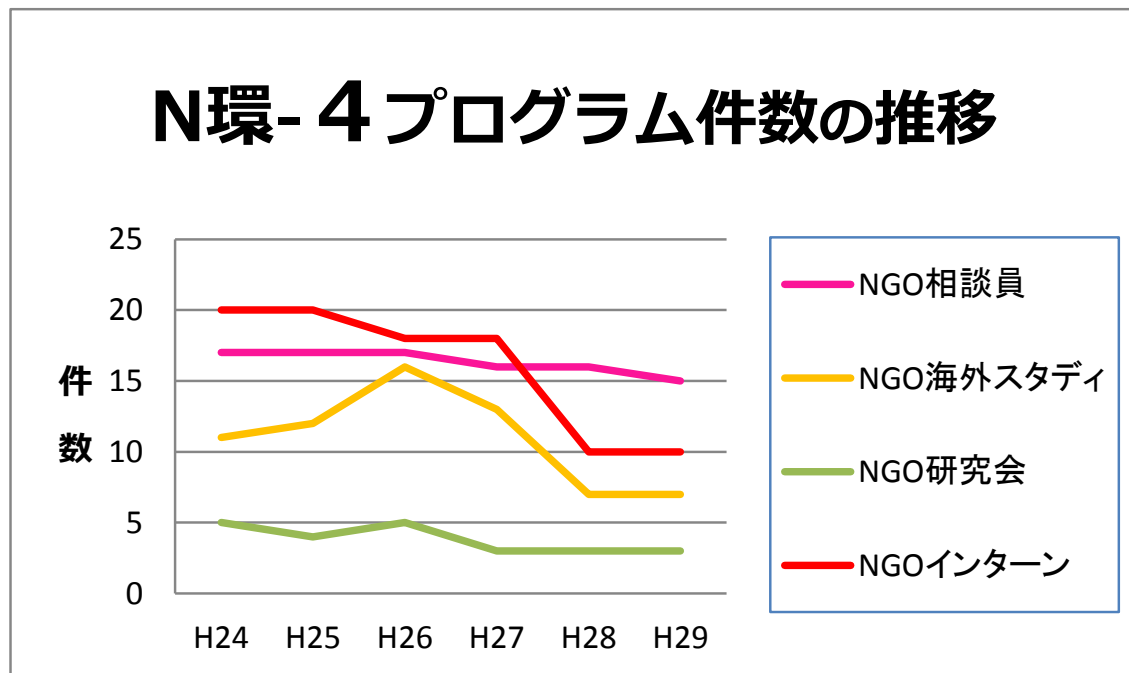
まずは、昨年度の議論を通じた N 環各プログラムの変更点や、今年度の予算、応募枠などについて、外務省から報告いただくとともに、今後の N 環の変更などの方針について伺いたい。その上で、N 環の重要性に鑑み、今年度どのように議論、検討を進めていくかについて、議論を行いたい。

【出席を希望する外務省部局または担当者】

国際協力局民間援助連携室

以上

【補足資料①】N環 4プログラムー過去6年間の件数の推移



【件数と予算の推移】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
NGO 相談員		17	17	17	16	16	15
NGO 海外スタディ		11	12	16	13	7	7
NGO 研究会		5	4	5	3	3	3
NGO インターン		20	20	18	18	10	10
予算額 (単位:円)	1.6 億					1.1 億	1 億

※件数の出典:外務省 HP https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo.html 他※予算額の出典:外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000298649.pdf>

【補足資料②】N環ー4プログラム 昨年度の実績

NGO 相談員	全国 11 都道府県 15 団体(北海道、山形、東京4、愛知2、大阪、京都、兵庫、岡山、愛媛、福岡、沖縄)が受託。 相談件数:12,304 件、出張サービス実施県・件数:48 全都道府県、171 件、NGO 相談員関連広報—SNS リーチ総数:209,348 件 北海道ブロック:(一財)北海道国際交流センター 東北ブロック:(特活)IVY 関東ブロック:(特活)国際協力 NGO センター、(特活)難民を助ける会、(特活)日本国際ボランティアセンター、(特活)開発教育協会 中部・北陸ブロック:(特活)アイキャン、(特活)名古屋 NGO センター 近畿ブロック:(特活)関西 NGO 協議会、(公財)PHD 協会、(公社)日本国際民間協力会 中国ブロック:(特活)AMDA 社会開発機構 四国ブロック:(特活)えひめグローバルネットワーク 九州ブロック:(特活)NGO 福岡ネットワーク 沖縄ブロック:(特活)沖縄 NGO センター
---------	--

NGO・外務省定期協議会 2018 年度「第 1 回連携推進委員会」
配布資料

NGO 海外スタディ	①TPO Uganda(ウガンダ)「災害・紛争等の人道緊急時における心のケアと精神保健・心理社会的支援の運営方法を学ぶ」(特活)ミレニアム・プロミス・ジャパン職員 ②Lehigh University(アメリカ合衆国)「フェアトレード事業の自立した経営に必要な販促方法や営業戦略について」(特活)シャプラニール職員 ③ルンアルンプロジェクト(タイ)「地域資源を有効活用し、社会問題を解決するための仕組みづくりを学ぶ」(特活)日本ハビタット協会 ④Origins Training and Consulting LLC.(アメリカ合衆国)「貧困と幼少期の逆境体験の世代間連鎖をどう断ち切るか、米国の実体と取り組みから学ぶ」(特活)ソルト・パヤタス職員 ⑤IMDEC(メキシコ)「活動地の市民社会組織(CSO)の組織力強化を支えるための NGO の役割」(特活)日本国際ボランティアセンター職員 ⑥Institute Bioforce(フランス)「人的資源管理と組織運営」(特活)難民を助ける会職員 ⑦Bond(イギリス)「英ロンドンで開催される Bond Conference and Awards 2018 に参加し、SDGs 時代におけるマルチステークホルダー連携とコンフェレンス運営に関するノウハウを学ぶ」(特活)国際協力 NGO センター職員
NGO 研究会	①「日本の NGO による、アジア・アフリカ諸国における政府と現地 NGO の対話プロセス構築支援の方法に関する研究」(特活)国際協力 NGO センター ②「日本の NGO の安全管理における課題の把握と政策の提言」(特活)難民を助ける会 ③「グローバル・ヘルスと NGO」(公財)ジョイセフ
NGO インターン	①(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン ②(特活)地球市民 ACT かながわ/TPAK ③(特活)ウォーター・エイド・ジャパン ④(特活)難民を助ける会 ⑤(公財)PHD 協会 ⑥(特活)エイズ孤児支援 NGO・PLAS ⑦(公社)シャンティ国際ボランティア会 ⑧(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン (2 年目継続) ⑨(公社) シャンティ国際ボランティア会(2 年目継続) ⑩(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン (2 年目継続)

以上